



1269

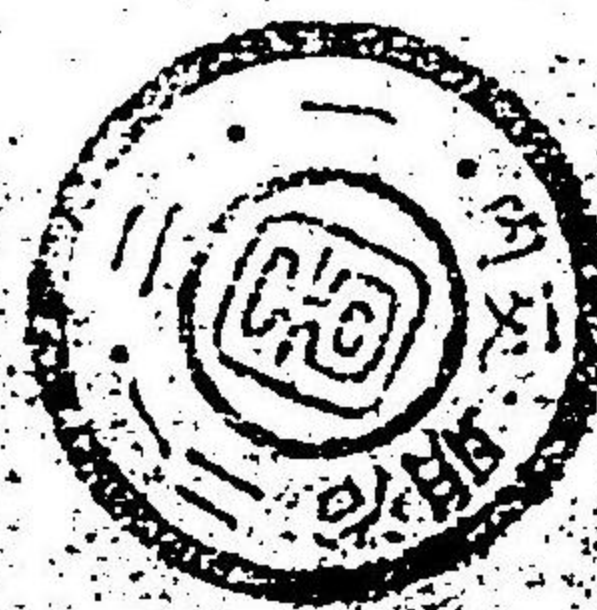
明治宗教論

明治二十年十二月廿日刊行

著述

麻生朝温

全



No. 8599

013776-000-5

特16-335

明治宗教論

麻生朝温/著

M20

ABA-0266



鴻儒宮本茂任先生題言

宗教ノ國ニ於ケル人心ヲ改良スル一端ニシ
テ我國固有ノ神道主トシテ用ヒ可キ也麻生
々一冊ヲ著シ題言ヲ乞フ余一閱スルニ言ヘ
ルコトアリ神道ハ宗教ノ精心ヲ得タリ耶蘇教
ハ宗教ノ體格ヲ得タリト因テ二教ヲ合セ一
ニセント欲ス此一説頗ル奇ナリ余爲ニ一言
ヲ一轉シ耶蘇教ヲ神道ニ編入ス可シト言フ
是ヲ題言トス

明治二十年十二月十五日

樂古庵主人

明治宗教論目錄

- 第一 天地創造問答
- 第二 神ノ説
- 第三 宗教ノ性質ヲ論ス
- 第四 人ハ宗教ヲ信セザル可カラザルヲ論ス
- 第五 地獄極樂ハ現世ニアリテ未來ニ非サルヲ論ス
- 第六 文學ト宗教トノ主義ヲ論ス
- 第七 學者ノ信服スル宗教ニ非ザレハ宗教ト稱スルニ足ラサルヲ論ス
- 第八 佛教ヲ論ス
- 第九 神道ト耶蘇教トノ關係ヲ論ス
- 第十 耶蘇教ノ佳ナル所ヲ吾カ日本國ニ採用スルノ不可ナキヲ論ス

明治宗教論

第一 天地創造問答

或人問テ曰萬物ハ何者ヨリ分離シ亦何者ノ働キニ由テ育生スルヤ答テ曰天帝ナリ(天帝トハ太陽ノ中ニ在マシテ神ト云)曰何ヲ以テ之ヲ知ルヤ曰草ヲ田圃ニ植ルニ天國ノ(天國トハ太陽ヲ云)光線ヲ裝ルヲ多ケレハ能ク育生シ日陰ニ之ヲ植レハ僅カニ育生シ光線ノ全ク無キ所ニ之ヲ植レハ少シモ育生スルヲナシ而テ草類ノ水土中ニ萌芽ヲ發スルハ其水土中ニ空氣ヲ注入スルヲ以テナリ其空氣ノ育生量ヲ有スルハ光線ノ空氣中ニ抱合スルヲ以テ也然レハ空氣ト水土ハ唯物ヲ抱載補翼スルニ止リ育生量ノ有ラサルヲ明カナリ之ヲ以テ萬物ハ皆天帝ノ働ニ由テ育生スルヲ知ル可シ(動物モ發育ノ理ハ同一ナレバ略ス)現在ノ萬物皆天既ニ天帝ノ働シニ由テ育生ス然レハ地球ノ如キモ古ヘ天國ヨリ分離シテ成リ立シヲ推テ知ル可シ尙ホ之ヲ約言セバ吾生ヲ

養ヒシ父公吾ヲ生ミシ者ナリ之ヲ以テ吾々ヲ造リシ其原父ハ即チ天
 帝ナルコトヲ知ル可シ
 問チ曰吾生ガ靈魂ハ何者ヨリ成立シヤ答テ曰汝酒ヲ容ニ甞スルニ當
 リ無酒ノ空瓶ヲ以テスルヤ天帝ハ既ニ吾生ガ身体ヲ發育シ給ヘリ何
 ソ唯靈魂トキ空瓶ト如キ身体ノミヲ發育シ給フコト之レ有ンヤ靈魂モ
 亦天帝ノ勳ニ由テ發生スルコト疑ヒナシ而モ靈魂ハ身体ヨリモ却テ
 發育シ給ヒシコト之シアリ茲ニ其證ヲ顯ハサン吾カ靈魂ノ働キヨリ名
 クル道德ノ最モ重ンズル所ノ者ハ正公明ノ三者ナリ入ハ正ナレハ谷
 ナク公ナレハ私偏ナク明ナレハ吾カ天稟ノ性ヲ充分發達ス孟軻カ謂
 所云浩然ノ氣ヲ養ヒ那破崙翁ガ蓋世ノ勇ヲ振フモ此ノ三者ヲ擴充ス
 ルニ外ナレハ畏クモ天國ヲ見ヨ其正ナルハ吾々ガ心ノ正直ナル可キ
 ナ示セル者ナリ其温ク普チク世界ニ及フハ吾々ガ心ノ公平ナル可キ
 事示セル者ナリ其明ナルハ吾々ガ心ノ誠明ナル可キヲ示セル者ナリ

一トシテ道德ノ目的トスル所ニ符合セサルハナシ彼ノ哭スル者ハ其
 衷ニ悲ミアルヲ以テナリ彼ノ吐號スル者ハ其衷ニ憤リアルヲ以テナ
 リ彼ノ笑フ者ハ其衷ニ喜ヒアルヲ以テナリ之ニ由テ其中ニ有ル者ハ
 必ス其外ニ顯ハル、コトヲ知ル其外ニ顯ハル、ハ其中ニ實アルノ證ナ
 レバナリ蓋シ神ガ吾々ヲシテ其道德ノ具體ヲ自然ニ覺知スル様ニ爲
 シ給ヒシコトナル可シ天國ノ表面ニ斯カル正公明ノ証アルハ其真中ニ
 無比最妙至尊ノ神アル以所ナリ因テ天國ハ聖靈アル活神ノ國ニシテ
 尋常諸星ノ如キ者ニ非サルコト判然タリ然レハ吾々ガ靈魂ハ其聖靈ニ
 由テ發育シ亦其聖靈ニ提督セラレ、コト理ノ當然ナリ
 甲者問テ曰天帝ハ何者ヨリ生シ給ヒシヤ乙者答テ曰自然ニ生シ給ヒ
 シ者ナリ何トナレハ天ノ神ハ一位ヨリ外ニナケレハナリ甲曰神ハ何
 ナ以テ一位ヨリ外ニナセ、ト云フヤ乙曰吾生ガ一ノ靈魂ニシテニツ
 ノ神ヲ戴クノ理ナケレバナリ甲曰何ヲ以テ然ルヤ乙曰汝ハ其邦ニ在

六
テ二君ニ事ルヤ甲曰否ナ吾々ガ事ル所ノ君ハ一君ナリ乙曰然ラハ神
ヲ戴クモ亦一神ナル事ヲ知ル可シ

第二 神ノ説

神トハ形ナクシテ人ノ心ト同一ノ者ニシテ天ニ在ツテハ神ト云地ニ
在テハ心ト云フ仰モ天帝ノ國ヲ大陽ト云其中ニ在マスヲ神ト云フハ
猶人間ノ形ヲ人ト云ヒ其中ニ在ル者ヲ心ト云フガ如シ故ニ神ハ宇宙
何レノ所トシテ臨監ナサレザルハナシ而テ人魂ノ誠不誠ヲ監視シ給
フ一恰モ光線ノ萬物ヲ照スガ如シ耶蘇教傳道者ガ宇宙何レノ所トシ
テ神ノ在マサザルハナシト云ハ是則天帝ノ監ミ給フ其視力ノ至ル所
即チ神ノ分子トモ言ンガ如キ者ニシテ之ヲ神ト云ハ大陽ヨリ普及ス
ル所ノ光線ヲ認メテ大陽ト云ニ異ナラス然レハ人ハ神ヲ拜セント欲
セハ其分子ノ如キ者ヲ拜センヨリハ本源ナル天帝ヲ崇拜スルニ如カ
ザルナリ

第三 宗教ノ性質ヲ論ス

宗教トハ唯教ヲ立テシ者ヲ宗トシテ盛大ナル教會ヲ組織シタル者ノ
謂ニ非ラス何トナレハ之ヲ以テ宗教ト云ナレハ孔孟ノ教モ亦宗教ト
言ハザルヲ得ス孔孟ノ教何ソ宗教ト言フヲ得シヤ然ラハ何ヲ以テ
宗教ト言フヤ曰宗教トハ目的ヲ定メ神ノ勳シニ倚リ教ヲ立テシ者ヲ
宗トシテ教會ヲ組織シタル者ノ云ナリ今日ノ佛教ノ如キモ其目的ヲ
定メス漠然トシテ主神ナク即心即佛等ノ事ヲ主張セハ是即チ一種ノ
心理専門實地學術トモ言フ可キ者ナリ

第四 人ハ宗教ヲ信仰セザル可カラザルヲ論ス

凡ソ物ニ上アレハ下アリ形アレハ影アリ人ノ形ヲ支配スルニ政府ア
リ特リ心ニ於テ支配スル者ナキノ理アラシヤ人ノ心ヲ支配スル者之
レ有リ天帝則是也神ハ聲ナシ何ヲ以テ支配スルヤ曰其命ヲ傳フル者
ハ良心ナリ良心ノ是トスル所ハ神ノ容ス所ナリ神ハ聲ナケレモ此良

心ヲ以テ事物ノ是非ヲ判決セシム故ニ良心ハ神ノ命令ヲ繼ク傳令士
 トモ謂フ可シ然モ此ノ傳令ニ順ハス吾カ身体ハ私有物ナリ吾カ心モ
 私有物ナリ私有物ヲ以テ私有物ヲ左右スルニ何ソソ神ノ預ルノ之レ
 有ソヤト嗚呼之ヲ暴論ト言ハサル可カラズ試ミニ顧ミヨ吾カ身体ハ
 自カラ造リ成セルヤ亦吾カ父母が自カラ造リ成セルヤ考一考セハ神
 ノ恩惠ニ係ルノ明カナリ斯カル恩惠ヲ蒙リナガラ神ノ命令ニ背戻シ
 テ可ナラソヤ教會ハ即チ神ノ命令ヲ審理攻究スル一大學校ナリ因テ
 吾カ身ノ貴重ナルヲ知リ神ノ信仰ス可キヲ覺ラハ宗教ニハ信從セ
 ザル可カラズ

第五 地獄極樂ハ現世ニ在ッテ未來ニ在ラサルヲ論ス

地獄トハ惡人ヲ罰スル所ノ謂ヒニシテ極樂トハ善人ヲ賞スル所ノ謂
 ヒナリ惡ヲ罰シ善ヲ賞スルハ天下ノ公言ニシテ福善禍惡ハ實ニ之レ
 有ル可シ然レモ其地獄極樂ハ現世ニアリテ未來ニ在ラサルナリ何ト

ナレハ茲ニ富有ニシテ少シモ慈善心ナク唯吾カ私慾ヲ恣ニスルノ人
 アラン此ノ如キ人ハ他人ノ中心ヨリ快ヨク之ニ和親交通ヲ求ムル者
 ハ決シテ之レ有ルマシ一人モ之ニ具ノ交通者ナケレハ是レ謂所ル匹
 夫ノ討ニシテ眞ノ快樂心ハナキモノナリ是則現世ノ地獄ナリ亦茲ニ
 最善ノ人アラン食スルニ鮮肉ナク寐ナルニ輕衾ナケレモ他人ニ愛敬
 セラレ鼓腹ノ樂ヲナスノ顔淵ノ如クナレハ是則現世ノ極樂ナリ斯ノ
 如ク地獄極樂ハ現世ニ備ハレリ何ソ未來ニ之ヲ要セソヤ然シ此ニ疑
 フ可キ者アリ天カ必ス福善禍惡スル者ナレハ顔淵ノ如キ道德家カ何
 ソソ天逝スルノ之レ有ラソヤト然リ而テ其天逝ハ道德ノ闕スル所ニ
 有ラズシテ養生ノ法ニ違ヒシヨリ罹天セシ者ナラソ凡ソ人ハ道德茲
 ニ有レハ必ス不幸ニ逢フナシトハ謂フ可カラズ智識モ亦ク最要ノ
 者ニシ智識道德兼備セサレバ吾生ヲ全フ能ハサルハ諸人ノ能ク知
 ル所ナリ而モ尙疑フ可キ者アリ人ガ罪ヲ犯シ現世ニ其罰ヲ遭ル者

アラント是レ亦決シテ然ラザルナリ斯ニ人ヲ創殺スル者アラント此入如何ニ其罪ヲ掩ハントスレモ天ノ密網ハ遂ニ漏ラサレナリ故ニ假令ヒ人ヲ殺スガ如キ大惡ニ非ザル小惡ニシテモ其應分罰ノ至ルコトハ亦殺人罪ト異ナルコトナシ火ハ小ナレモ熱ク氷ハ薄ケレモ冷カナリ小惡モ則ハレ其罪ヲ遁ルコト能ハサルヤ明カナリ然レハ現世ニ於テ地獄極樂ハ十分備具シタル者ニシテ未來ニ要セサルコト明々白々ナリ然ルチ神ガ再ビ是等ヲ罰スルガ如キコトアラハ是實ニ殘酷ノ甚シキ者ニシテ左様ノ神ハ神ニ非ザルナリ

第六 文學ト宗教トノ主義ヲ論ス

凡ソ物其主義ヲ明辨セザレハ自然其責任ノ有ル所ヲ誤用相犯スルノ畏レアリ故ニ之ヲ明辨スルハ必用ノコトナリト信シ之ヲ左ニ陳述ス文學ト宗教トハ脈管ヲ相通ズルチ以テ文ハ教ノ如ク教ハ文ノ如ク相似タルモ判然區別アリトス夫レ文學ハ人ヲシテ智識ヲ増サシムルチ

主義トシ宗教ハ人ヲシテ善良ニ感化シ其文學ガ授ケタル智識ヲ活用セシメ完全ノ人物ヲ涵養スルチ以テ主義トス然レモ文學中ニ亦教アリ(修身學ヲ云)此ノ文學中ノ教ト宗教ノ教トチ物ニ譬レハ文學ノ教ハ内務省ノ會計局ニシテ宗教ノ教ハ大藏省ノ如シ此ノ内務會計局ノ事務ト大藏ノ事務トハ何レモ金錢出納ヲ掌ル同様ノ事務ナレモ其管掌ノ主義トスル所ハ大藏ト内務トノ大別アルガ如シ尙ホ之ヲ明言スレハ文學中ノ教ハ手内職ナリ宗教ノ教ハ本職ナリ手内職ハ到底本職ニ勝ラザルナリ故ニ今日ノ文學博士ト雖モ道德上ノ事ハ宗教ニ從ハザル可カラズ而モ文學上ノ教ガ宗教ニ勝ル者トモ現今幾万ノ僧侶ハ皆テ贅物ナリ之ヲ還俗セシメ農ニ工ニ商ニ就カシメテ可ナリ而モ宗教ハ必用ノ者ニシテ文學ト對峙共力シテ人民ヲ完全ニスルノ能力アル者トモハ文學ノ進歩スルニ隨ヒ宗教ノ教則等モ亦改良擴張ノ事ヲ計ラザル可カラズ

第七 學者ノ信服スル宗教ニ非ザレハ宗教ト稱スルニ足ラサル
事ヲ論ス

目今我日本國ニ行ハル、所ノ佛教並ニ耶蘇教ノ景況ヲ熟見スルニ或
ハ木像ヲ拜シ或ハ漢空ヲ拜シ或ハ吾生ト同類ナル人間ノ靈亡跡ヲ(釋
伽及ヒ耶蘇ヲ云)天神同様ニ崇拜セリ是實ニ不都合ノ至リナリ爾已ナ
ラス極樂ヲ以テ誘ヒタリ地獄ヲ以テ恐嚇スル等ハ無學無智ノ人民ヲ
誘導スルニハ好手段ナレトス如キハ畢竟有眼者ノ不服ヲ來タスノ
根源ニシテ是等虛誕空事ハ宜シク斷手ト廢スヘキナリ然モ之ヲ廢シ
無學有學ヲ問ハス一般ニ適通スルノ教旨教則ニ改良セハ(至難ノコト
ガラ)今日ノ小學從事者モ幾分カ多ク之ニ信從スルニ至ラン然テハ小
學從事者ハ宗教中ノ部分トナル抑モ小學校ノ教ト宗教ノ教ハ草ヲ田
圃ニ養フガ如シ小學校ハ苗ヲ育フ所ニシテ宗教ハ其苗ヲ移シテ實ヲ
結ハスル所ナリ故ニ小學從事者ハ其苗ナル幼雅ヲ教育シ教導職ハ其

苗ノ稍ヤ長スルヲ俟テ結果ノ教ヲナサバ前後ノ氣脈相通シ教化ノ順
序ニ於テ實ニ遺憾ナカラントス而モ僧侶ハ舊法ヲ墨守シ小學從事者
ハ宗教ヲ信セザレハ幼年子弟ノ不幸之ヲ何トカ言ハン

第八 佛教ヲ論ス

從來佛教ノ勢態ヲ熟察スルニ無智無學ノ人民ヲ誘導スルニ止マル者
ノ如シ寺院アレトモ其信徒ハ之ヲ遊參所ノ如クニ思ヒ倣シ或ハ珠數ヲ
爪繰リ或ハ念佛スレトモ畢竟老婆カ餘生ヲ養フ一場ノ如ク然リ教法豈
此ノ如ク輕々ノ者ナランヤ是ヲ以テ仲士學者ノ之ニ從フ者ハ寥寥
星ノ如シ仲士學者之ヲ信セヌ下民何ソシ之ヲ好マンヤ上ノ好ム所ハ
下之ヨリ甚クシ教法ノ必用ナルコトヲ思ハ、上タル仲士學者之ヲ塊ヨ
リ始メテ下民ヲ誘掖セサル可カラズ上之ヲ信セハ下民ノ之ニ歸依ス
ル沛然トシテ水ノ下ニ就クカ如クナル可シ下ノ之ニ從ハザルハ仲士
學者ノ愆ヲナリ子弟ノ之ニ赴カザルハ父兄ノ愆ヲナリ此ノ仲士父兄

ガ愆ヲチ來タシタルハ教導職ノ不行届ナリ此ノ不行届ヲ屢シタルハ
 仲士學者ガ手内職ト一般ナル學問上ノ教ヲ以テ終身之ヲ假用スル者
 ノ世ニ多キト宗教ノ未タ完全ナラザルガ爲ナリ
 佛教古來專權ヲ有握シ他宗教ノ之ト清鏡スル者ナキカ爲メニ人民ハ
 其教ノ審粗ヲ問ハスシテ歸依ス而モ近來耶蘇教ノ浸入セシヨリ熟眠
 ナ覺マシ大ニ奮勵心ヲ發シタリ然レハ耶蘇教ハ佛教ノ爲メニハ良藥
 ニシテ佛教ハ亦耶蘇教ノタメニハ良藥ナリ而テ佛教從事者ハ尙ホ一
 層奮勵シ天ノ未タ陰雨セザルニ先タテ非常ノ大改革ヲナサズンハ往
 時耶教ノ爲メニ消滅セラル、ノ懼レアリ之ヲ如何シテ可ナラン余ハ
 思フニ各種ノ宗名ヲ廢シ釋伽教ノ一名ニ改メ(若シ之ヲ改ムルヲ能ハ
 サレハ從來ノ宗名ヲ小名ニシテ各宗皆テ釋伽教何宗會ト改ムルモ可
 ナランカ)而シテ天理ニ逆ラヒタル僧侶ノ禁妻帯ヲ政府命令ノ通り各宗
 一般ニ之ヲ解キ其拜戴スル佛ヲ改メ吾カ日本國ノ名稱ニ大關係アル

日神即チ天帝ヲ崇拜シ而モ各宗垣ニ閱ノガス一致戮力シテ事ヲ舉ケ
 ハ或ハ纏屬ノ一端トモナランカト

第九 我カ日本國ノ神道ト耶蘇教トノ關係ヲ論ス

我カ日本ノ神道ハ日神即チ天帝ヲ我カ國ノ始祖トシテ之ヲ崇拜スル
 者ナレハ宗教ノ眞旨ニ叶ヒタル者ト云フ可シ然レモ惜ムラクハ其教
 則ニ至ツテハ未タ盡サ、ル者ノ如シ而テ耶蘇教ハ宗教ノ体裁ヲ稍ヤ
 完フスレモ漠然タル空雲ヲ拜スル等ハ宗教ノ眞旨ヲ失ヒタル者ト謂
 フ可シ然ラハ神道ハ其精神ヲ全フシテ身体ヲ備ヘス耶蘇教ハ身体ヲ
 備ヘテ精神ヲ全フセス何レモ不具物ヲ免レス因テ余ハ思フ耶蘇教ノ
 教則ヲ採ツテ神道ノ精神ニ附スルカ亦ハ神道ノ精神ヲ採テ耶蘇教ノ
 体格ニ附スルカ何レカ一方ニ歸セサル可カラズト

第十 耶蘇教ノ佳ナル所ヲ吾カ日本國ニ採用スルノ不可ナキ

ヲ論ス

鳥ノ將サニ死ナントス其鳴クヤ哀シ人ノ將ニ死ナントス其言ヤ嘉シ
 耶蘇身命ヲ犠牲ニシテ教法ヲ傳フ其教ノ善ナルハ其精神ヲ見テモ知
 リ得ベシ而モ其教ノ善ナルハ新約全書ヲ(書中ノ事蹟ニ妄誕アレヒ之
 ハ其徒弟ガ耶蘇ヲ信スルノ厚キヨリ知ラス知ラス妄誕トナリタル者
 ニシテ其信者ガ今日マテ自カラ發覺シ能ハサリシハ猶維新以前吾々
 至愚不熟ノ漢學者ガ孔孟ノ教ホド貴ク且ツ完全ナル者ハ他ニナシ、
 ト思ヒ込メタルカ先入主トナリ容易ニ其藩園内ヲ脱スルコト能ハサリ
 シト同様ノコトヲ深ク責ムルニ足ラサルナリ)玩味セハ余ノ贅言ヲ俟
 タザルナリ然レモ或ハ謂ハン耶蘇教ハ邪辟ノ教ニシテ本邦適當ノ宗
 教ニ非ズト豈夫レ然ランヤ邪辟トハ何レヲ指シテ之ヲ謂フヤ其邪ト
 ル所ヲ指サズシテ邪教ト言フハ是舶來品ノ臭氣ヲ忌ンテ品ノ良否ヲ
 問ハス一概ニ惡シト言フニ異ナラズ而テ今日我カ日本國ハ政治ノ
 組織ナリ諸學科ナリ諸器械ナリ細大洩テサス之ヲ採用セリ特ニ宗教

ノミ吾國ニ適セサルノ理アラシヤ昔シ佛法ノ初メテ來リシ時ニ當リ
 物部守屋等邪教ナリトシテ之ヲ痛ク攘斥シタリ然モ浸染ノ久シキ途
 ニ今日ノ姿トハナリタリ耶蘇教モ之ト同轍ニ歸スル推シテ知ル可キ
 ナリ之コト由テ之ヲ見レハ耶蘇教ヲ忌嫌スルノ輩ハ韓退之ノ糟糠ヲ嘗
 ムルニ過キサルナリ而モ亦或ハ言ハン耶蘇教信徒中共和政治ノ國ア
 ルヲ以テ之コト做フ者アラント然シ是モ亦愛ルニ足ラス何トナレハ吾
 國ト同様君主立憲政体ニシテ耶蘇教ヲ國教トナシ治蹟能ク擧リ文物
 燦然タル英國ノ如キアリ此他文明ヲ以テ誇ル所ノ國ハ皆ナ耶蘇教ノ
 盛ソニ行ハレザルハナシ是レ焉ソシ耶蘇教ノ反映ニアラサルヲ知ラ
 シヤ然ラハ耶蘇教ヲ本邦ニ採用スル何ノ不可カ之レアラシ且ツ耶蘇
 教ナキニ後時平將門ナキヲ保シ難シ然ラハ耶教ハ必スシモ共和政治
 ナ播種スルノ具トハ言フ可ラス然リ而シテ吾カ日本國ハ外國ト異ナ
 リ

天皇ハ天授ノ天皇々統連綿一系統臣民ハ忠亮義節ノ良質ヲ有スル者
 ナリ假令ヒ民權ヲ伸張スルニ焉ソツ天皇陛下ノ特權ヲ犯ス者之レ有
 ランヤ之ヲ古來ニ徵スルニ源賴朝ノ如キ大權ヲ有スル者幾人モ之レ
 有レト皆ナ我皇室ノ至尊ナルヲ知リ國體ヲ辱カシメザリシハ本邦固
 有ノ義心即チ日本魂ノ在ル有ルニ由テナリ遇マ朝威ヲ凌ガントスル
 古今獨狂ノ平將門ノ如キハ錦風一拂ノ下ニ塵滅セリ他日若シ將門ノ
 二ノ舞ヲナス者アラハ亦此ノ如クナルベシ且ツ此ノ如キハ本邦人中
 ノ不具者ナリ瘋癲者ナリ之ヲ倒ス何ソカ有ラン而シテ人ニ能不能ア
 リ外國人ハ物ヲ發明シテ誇ル吾カ邦人ハ之ヲ取捨シ之ヲ採用スル無
 比貴重ノ決斷力ニ富ム何ソソ赤鬘輩ニ屈隨スルヲセソ然シ自慢ハ
 害アリテ益ナシ支那ノ中華自慢遂ニ耻辱ヲ北京ニ遺シタル般鑿遠カ
 ラズ亦戒シムベキノ一大要事ナリ而テ吾カ長スル所ハ之ヲ收メ彼ノ
 長スル所ハ之ヲ採ル萬國皆同一ナリ何ソソ耶蘇教ヲ採用スルノ不可

ナルヲ之レ有ランヤ然レト人民ハ多夥ナリ或ハ足利尊氏ノ名望ヲ以
 テ平將門ノ猖獗ヲ逞フセントスル者ナキヲ保シ難シ然シ是等ハ國ヲ
 保護スル夫々ノ職官アリ何ソソ吾々カ先ツテ之ヲ憂ルニ足ラサルナ
 リ然ラハ耶蘇教ノ佳ナル所ヲ採ツテ吾カ國ニ行フ何ノ不可カ之レア
 ランヤ

○第九編ハ考フル所アツテ之ヲ取消ス但題言ヲ乞フノ後之ヲ發意ス
 明治二十年二月^四出版御届
 明治二十年十二月二十日出版

東京府荏原郡北品川宿千四番地住居平民

著述並ニ出版人 麻生朝温

